巻頭言

分析のOnly Oneを目指して

会長　堀場 雅夫

21世紀の日本は, 世界中の国々から, 将来はこんな国になりたいと思われるような理想的な国家になりたいものです。

これを実現するためには, 日本なればこそと感心されるような政治, 経済, 文化, すべての面で独自性を発揮しなければなりません。

明治以降, 今日までの日本は, 西欧の社会・文化に大きく影響されてきました。というよりは, 積極的に模倣してきたと思います。しかし, 模倣はあくまでも模倣で, そこからは何らの創造も生れてきません。

日本にはこれといった天然資源がなく, 国土も狭く, その上有効に使える平野となると一層狭隘な, そんな土地の上で我々は生活をしています。だからこそ, 資源, エネルギー, 土地, すべての面で効率の高い産業を興さなければなりません。

このような考えを徹底すればするほど選択と集中を進めることになります。それを具現化するためには, 企業間や産業間は当然なこと, 国家間の役割分担が重要となります。そして, 各々の役割分担をどのように実現するかが理想的な社会の成否を決めることになるのではないでしょうか。

近年, 従来世界的規模と思われていた企業が, 21世紀を生き残るためには単独で経営することは困難だと判断し, 企業間の大同団結を進めています。同じように, 国家規模でもEUに代表されるような統合が行われることは間違いありません。

しかし, 21世紀に誇りを持って生き抜くためには弱者連合であっては意味がありません。互いに異なる分野で得意技を持ち, しかもそれぞれが一流であってこそ初めて連合の意味があると思います。

では, 日本はいかなる分野でOnly Oneになる可能性があるのか。そこに国力を集中し, 他の追従を許さない地位を確立し, そして持ち続けることがぜひ必要です。

その分野の一つとして, 学術, 科学技術, 工業のすべてのジャンルにおいて不可欠なものとして物資の定性や定量を行う分析・計測があります。計測分野は, 学術面においても産業面においても極めて地味で, 陽が当たりにくいところがあります。しかし, 自然科学も社会科学も, 太古の昔から「サシ・マス・ハカリ」, すなわちL.M.T.の基準がなくては何も進みません。

かつての化学工業では, 温度, 圧力, 流量などの物理量だけを制御していれば生産工程の大部分がコントロールできましたが, 今や, 原材料の受け入れから各工程の管理, 最終製品の検査, 更には工場からの排液や排気まですべての面で物質の処理・管理が必要になっています。そこには多くの分析・計測機器が使われています。

そして, その基本はスタンダリゼーション, 標準化です。標準化のレベルが, 一国の自然科学のレベルを左右すると言っても過言ではありません。我々が関わる分析・計測機器は, すべて標準物質を基準とした相対値から成り立っています。天秤の測定精度と信頼性は天秤と分銅の関係で決まるもの, つまり, 分銅の精度が天秤の精度に直接つながっています。

HORIBAは, グループをあげて, あらゆる科学的手段を利用して「Number One」,「Only One」の分析機器と世界標準の完成を通して, 日本はもちろん世界人類の幸福のために貢献していきたいと日々努力しております。

計測分野が更に発展を続けていくためには, 業界が力を合わせることは当然ですが, 学, 官, 産との連携と, それぞれの大きなアントレプレナーシップが必要であることを痛感しております。

皆様のご支援を得て, HORIBA グループの活動が分析・計測, 標準の世界一の国家になるための一助になりたいと精進しております。そしてホリバの技術誌Readoutがこれらの活動の前進に少しでも貢献できればこれに過ぎる喜びはありません。